

グローバル社会をいかに生き抜くか —企業と大学に求められる「工学力」—

日時 平成 27 年 1 月 28 日 (水) 13 時～

会場 東京工業大学 大岡山キャンパス 西 8 号館 E 棟 10 階大会議室

(〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1)

プログラム

13:00 ～ 13:05 開会のご挨拶

13:05 ～ 13:45 清水建設株式会社 国際支店副支店長 北 直紀 氏
『海外建設工事におけるリスクマネジメント』

13:45 ～ 14:25 シチズンホールディングス株式会社
開発部 橋本 信幸 氏
『サイエンスをテクノロジーに、国境を越えた智の競争』

14:25 ～ 14:35 休憩 (コーヒープレイク)

14:35 ～ 17:25 学生発表

1 班『駅構内対応 ナビゲーションシステム』

2 班『イベントお知らせアプリ』

3 班『災害時の適切な避難提示アプリ』

4 班『データを利用した食生活支援システム』

5 班『災害時！助け合いアプリ』

6 班『おもてなし The Movie』

国際班 1 班『Investigation of methods to model a human lung
undergoing FOT to aid in disease classification based on impedance results』

国際班 2 班『The Design and Analysis of a Novel Neck Protective Gear for Road Cyclists』

17:25 ～ 17:55 総合討論

17:55 ～ 18:00 閉会のご挨拶

18:00 ～ 意見交換会 於：西 8 号館 W 棟 W311



お問い合わせ先 情報環境学専攻教授 廣瀬壮一

Tel: 03-5734-2692

E-mail: opl@mei.titech.ac.jp

主催 東京工業大学 大学院情報理工学研究科 情報環境学専攻

開催趣旨

社会・経済が高度化・複雑化し、グローバル化が進展する中で、我が国が活力ある社会を築き、国際社会での競争力を維持・強化していくためには、大学院教育においても産業界等との連携を強化し、問題解決志向が強く多様な社会の要請に対応できる人材を輩出する必要がある。特に、さまざまな要因が複合的に作用する情報環境学では、組織・研究分野の垣根を越えた交流とそれに対応する教育が不可欠であり、当専攻はプロジェクト「高度専門教育のための OPL を核とした情報環境教育・研究システムの展開」の一環として、企業と連携した実践的教育を実施している。

2012 年度には東日本大震災を受けて、「災害に強い社会システム」をテーマに第一回シンポジウムを開催し、「情報システム」が果たすべき役割、その実現のための大学－行政－民間連携型の研究開発や人材育成のあり方について議論した。2013 年度には「社会が求める大学院教育のあり方」をテーマに、世界の中における日本の課題など広く社会背景を踏まえて、新しいイノベーションモデルの構築の進展など大学教育における課題と方向性について議論した。第三回となる本シンポジウムでは、今年度の成果を発表するとともに、グローバル社会をいかに生き抜くか、国際的に活躍されている企業の方々から基調講演を頂き、大学から企業へとつながるグローバルな人材育成について議論する。

本シンポジウムは当専攻が現在実施しているプロジェクト「高度専門教育のための OPL を核とした情報環境教育・研究システムの展開」の一環として開催するものである。このプロジェクトは、On the Project Learning (OPL) を核とした新たな教育・研究システムを創設し、情報環境学特有の複合環境問題に対して、問題解決志向が高く総合力に長けた人材育成を目的とし、組織・研究分野の垣根を越えた交流によって新たな研究の方向性を見出し、それに対応する教育を展開しようとするものである。

シンポジウムについて